

米国 夏の終わりに向けてブルーベリー出荷量が増加

The Packer 2023年7月27日

夏が終わりに向かう中、全米のスーパーは多くのブルーベリーを仕入れている。

カリフォルニア州フォルサム市に本拠を置く米国ハイブッシュブルーベリー協議会の事業情報部門の責任者であるジョー・バルガス氏は、現在ミシガン州、ワシントン州、オレゴン州及びカナダからブルーベリーが出荷されており、ニュージャージー州は出荷を終了するところで、ペルーはまもなくブルーベリーの出荷を開始すると述べた。

同氏は、「ほとんどの地域で生育条件は良好である。ただし、ミシガン州とその周辺の州で干ばつが少しあり、果実のサイズに影響を与える可能性がある」と述べた。また西部では、受粉量が当初の予想よりも少なかったが、同氏は依然として「品質とサイズが良く、全体的に多変良い作柄」を期待している。

出荷シーズンが始まる前に出された北米ブルーベリー協議会の2023年米国内作柄報告書では、米国で7億ポンド強のハイブッシュブルーベリーが出荷されると推定されていた。(1億ポンド=約4万5,359トン)

米国農務省農業統計局によると、昨年の出荷量は約6億1,430万ポンドであった。そのうち、53%が生鮮品として出荷され、47%が加工品として出荷された。また、ワイルドブルーベリーまたはローブッシュブルーベリーとして米国内に出荷されたものが7,760万ポンドあった。

カリフォルニア州サリナス市に本拠を置くナチュライプ・ファームズ(Naturipe Farms)社は、同社のブルーベリーの出荷量が7月にピークに達するとしている。

同社の商品管理担当副社長であるブライアン・ボコック氏は、「弊社の複数の産地でナチュライプ・ブランドのブルーベリーの堅調な出荷ピークが見込まれる。ニュージャージー州とミシガン州のすべての契約生産者でブルーベリーの出来が素晴らしく、太平洋岸北西部では秋にかけて同じことを期待している」と話す。

同氏はまた、ブルーベリー業界は、「より良い風味、サイズ、味、食感、貯蔵寿命を備えた」新しい品種を用いて進歩していると述べた。

同社の事業開発部門の責任者であるフェルナンド・アギアル氏は、ナチュライプの生産者らは、より美味しく、果実が引き締まっており、より風味豊かなベリーを栽培するために、民間の育種プログラムに多額の投資を行ってきたと述べ、「この夏、弊社の最新のブルーベリー品種を消費者にお試しいただくのが待ち遠しい」と話す。

前出のバルガス氏は、ブルーベリーの国内生産と輸入が組み合わさり、さらに米国ハイブッシュブルーベリー協議会やブルーベリーの営業担当者、小売業者の営業活動に支えられて、ブルーベリーの周年供給が成り立っているとして、「出荷量は毎年増え続けており、出荷されたブルーベリーを店頭などの宣伝の場で利用しやすくなっている」と述べた。

執筆者: トム・バーフィールド